

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2072501139		
法人名	社会福祉法人 阿南町社会福祉協議会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム まめだかな		
所在地	長野県下伊那郡阿南町西条694-1 (電話)0260-22-3151		
評価機関名	特定非営利活動法人 長野県高齢者福祉協会		
所在地	長野市南長野南県町1001番地3 陽光丸ビル4階		
訪問調査日	平成19年11月17日	評価確定日	平成20年1月22日

【情報提供票より】(平成19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤7人, 非常勤3人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1 階建ての	~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1		2名	要介護2		2名	
要介護3		3名	要介護4		2名	
要介護5			要支援2			
年齢	平均	86 歳	最低	79 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立阿南病院、阿南町富草診療所、みかさクリニック、回生堂クリニック
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

”福祉の輪を広げ、思いやりのある町にする”とした阿南町民憲章に掲げる基本的考えが、施設開設のきっかけとなっている。建物は町が建設し、阿南町社会福祉協議会が運営しているため、町の行政と施設を運営する阿南町社会福祉協議会(まめだかな)は密接な連携が図られている。また、近隣の商店や関係機関、地域住民とのネットワーク・繋がりは、従来から福祉行政をしっかりとやってきた結果の上であり、そうした特徴を大事にしながら、入所者の自立に向けた運営がされている。施設は、他のグループホームに比較して、建物も土地も広く、入所者が大自然の中で、伸び伸びとゆっくり生活が出来ている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>施設内会議や運営推進会議などへきちんと報告し、改善を進めてきている。個別の栄養摂取状況の把握については、法人内の栄養士との連携のもとで、入所者の献立づくりを行ってきている点や金銭管理については個別の希望を聴いた支援が見られるので評価したい。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員が一体となって、評価の意義をきちんと受け止め、サービスの向上に日々取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は年2回、家族代表、地元区長、民生委員、地元企業代表、介護相談員、阿南町民生課長、地域包括支援センターのメンバーで「まめだかな」で開催している。協議内容はグループホームの利用状況説明や職員体制、行事の予定、外部評価の報告などで、施設の状況を関係者に知ってもらうには絶好の機会として捉えている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>定期的に施設に見られる家族から、入所者への要望や施設運営への意見を寄せてもらえるように職員全員が取り組んでいる。要望については、介護サービス計画に反映し、入所者の処遇向上に努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>施設開所以来、現在も地域との結びつきを大切にし、地域住民、商工会、保育園児が定期的に施設に来て、行事を通じ入所者とふれあいを増やしている。施設内にはその写真が展示されている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体で、地域のさまざまな福祉サービスをおこなっているほか、多様な福祉ニーズに応えるため、地域の特性を踏まえ創意工夫をこらした事業に取り組む中から理念が作られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設職員会議で理念の共有、共通理解の取り組みがみられる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を地域との結びつきを強める核として、日常的に地域住民と交流を深め、保育園児、敬老会などが施設を訪れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員が一体となって、評価の意義をきちんと受け止め、サービスの向上に日々取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年2回の運営推進会議を開催し、評価結果や指摘された項目の改善への取り組み状況を報告している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町民生課が町内2カ所あるグループホームの入所調整を行っていることなどから、行政との意思疎通が図られている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>広報や施設からの入所者の日々の暮らしぶりがわかる定期的なお便りを出している。家族アンケートの中、職員の異動の報告がありますかの質問について、1名の報告がないとの記述があった。</p>		<p>家族は、入所者本人がお世話してもらっている職員の情報について関心が高いため、異動が決まった時点で情報を流すことが望ましい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年1度、家族交流会を開催し、その中で意見を聞いている。また家族が来荘された時にはどんな小さな意見や思いでも、職員は極力聴くように努力している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>社協本部内への異動は少なく、出来るだけ専属でグループホームに長く勤務できるような体制を組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体及びグループホーム双方で研修計画に基づいて実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内にある別のグループホームとの交流を計画している。グループホーム連絡会に加入し、情報の交換を行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームの生活が不安なく、送れるため、入所前の面接や体験の機会を大事にしている。家族の思いを受けとめ、介護サービス計画に反映がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入所者本人の目線に立ち、一緒に食事をしたり、行事を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に本人・家族より聞き取りを行い、その後職員と一緒に暮らす中で更に深く得られた情報をもとに、「センター方式」によって本人の側からの視点で、思いを把握している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>まめ会議を定期的で開催し、その中で利用者・家族から出された意見等を介護計画に反映している。介護計画はそれぞれ各担当者が立案し、ホーム長が最終チェックをしてケアプランとしている。</p>		<p>介護計画の最終確認を本人・家族で確実に行われたかどうかを記録に残すと共に、家族の同意についてサインをもらっておくことが望ましい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しが行われている。病状に変化等があった場合においても、本人・家族と話しあい見直しがされている。</p>		<p>介護計画の最終確認を本人・家族で確実に行われたかどうかを記録に残すと共に、家族の同意についてサインをもらっておくことが望ましい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>かかりつけ医に受診する際は、利用者が不安なく受診できるように、職員と家族が役割分担をしながら、支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所者の多くは、同じ町内の診療所の医師がかかりつけとなっているが、疾病の違いにより、遠方のかかりつけ医が支援している状況もある。こうした場合は家族と一緒に受診の支援を行っている。なお、家族が来れない場合は施設が対応している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期の対応について、本人・家族の希望を聞きながら、管理者が生前指示書の説明を行い、終末期の支援の方向を確認しあっている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>特に、排泄や入浴について職員は気をつかった対応を心がけている。入所者に対してそばに行って大声で声かけをしないなど配慮している。記録は人目にはつかないようにし、施設内の学習会や施設外研修会に参加している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人のペースに合わせた食事時間を作るなど、本人の暮らし方を優先し、入所者のペースに合わせた支援が行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者各自の好みを職員がきちんと把握しており、利用者と職員が一緒になって、食事の準備・片付けにあたっている。誕生会には本人の希望に添って、酒を出すこともある。入所者の重度化により、介助を必要とする場面が多くなっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	グループホームでの入浴は一日おきで支援している。時々近くにある温泉へ行って、入浴の楽しみを増幅させる目的で、利用者を精神面から元気にする活動が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	施設内には自然の産物から利用者と職員が協働で作った季節感ある作品が飾られている。また、居室には趣味の領域となるギターやキーボードなどの楽器が置かれ、ゆったりとした生活の中にも、能力が発揮できる支援が行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	まわりが商店街という立地条件を生かして、墓参りや町への買い物などが本人の希望によって行われている。家族・職員による安心安全な支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の窓は庭先に出入り可能な掃き出し窓とし、開放的な生活空間となっており、認知症高齢者が安心して生活できる工夫の跡が見られる。		鍵は、玄関に安全のためにかかっている状態ではあるが、万一、開放して利用者が外へ出て行っても、地域住民や近隣の関係機関との協力により、大事に至らぬような施設づくりが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	法人ぐるみで地域住民との日常的なつきあいが進んでいる。夜勤者がひとりの時、火災等が発生した場合などでも、近くのデイサービスの宿直者が応援に駆けつけたり、警備会社が協力してくれるシステムが作られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	同一敷地内にある法人施設の栄養士が利用者の食べる食事についてアドバイスをもらえるようになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	太陽光発電設備を備え、環境に配慮した建物である。室内は、天井が高く、採光や風通しが良いため、夏は、明るく、自然のエアコンの中で生活できている。共用部分は床暖房が入り、居心地が良い環境にある。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室はグループホームで用意された家具と利用者が家庭から持ってきたなじみの物が置かれている。趣味を楽しむ音楽の機械やギターなどの楽器も置かれ、自分らしく生きられる環境づくりに配慮がされている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。